

インフラツーリズム拡大の手引き(案)

平成 31 年〇月

国土交通省 総合政策局

目 次

はじめに

魅力的なインフラ施設

1. 現状と課題	1
1.1 インフラツーリズムのこれまでの取り組みと現状	1
1.2 これまでの取り組みからの課題	1
2. インフラツーリズム拡大の方向性	2
3. インフラツーリズム拡大の勘所	3
3.1 インフラツーリズムの課題への対応方法	
3.2 インフラツーリズム拡大の勘所	
①人を呼び込むための工夫	4
①-1 施設の見せ方	4
①-2 魅力発信	8
②より多くの人を受け入れるための工夫	
②-1 対応要員の確保	
②-2 受入環境の整備	
②-3 安全性の確保	
③持続的に展開するための工夫	
③-1 持続性の確保	
③-2 地域との連携	
4. 事例に見る取り組み	12
4.1 紹介する事例について	12
4.2 事例紹介	14
(1) 首都圏外郭放水路（埼玉県）	14
(2) ハッ場ダム（群馬県）	16
(3) 宮ヶ瀬ダム（神奈川県）	
(4) 天ヶ瀬ダム（京都府）	
(5) 鬼怒川ダム（湯西川ダム、川治ダム）群（栃木県）	
(6) 明石海峡大橋（兵庫県）	
(7) 八十里越（新潟県・福島県）	18
(8) 休山トンネル＋防災技術センター（広島県）	
(9) 検討中	
(10) 検討中	

はじめに

インフラは日常の生活や経済活動を支えているだけではなく、観光資源として活用できる地域固有の財産であり、それらの特性を活かし近年、普段触れることのできないインフラの内部や工事中の風景などを見学する「インフラツーリズム」が各地で実施されている。

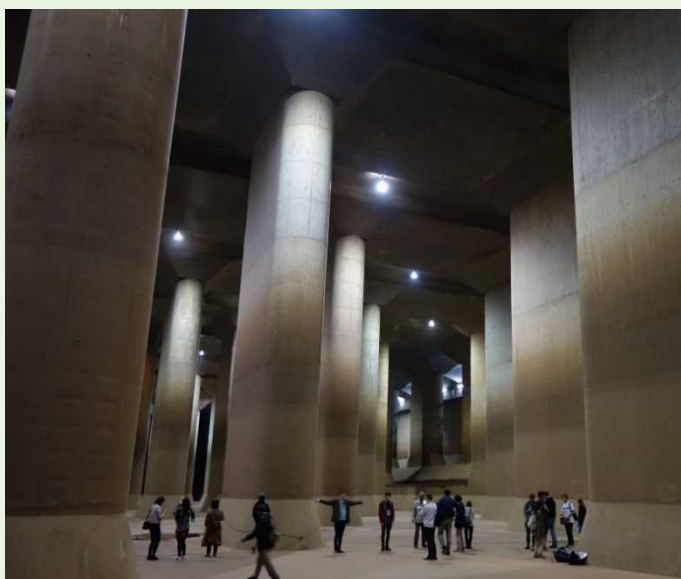
観光産業を我が国の成長に資する基幹産業とするため政府全体で取り組まれている中で、魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放として、「インフラツーリズム」について積極的に取り組みを進めている。

多くの来訪者を集める魅力的な施設も増えてきているが、一方で、インフラの魅力を活かし切れていない施設も全国に多数存在している。

この手引きは、インフラツーリズムを推進している先進事例から、インフラの魅力を引き出す工夫を学び、その工夫が他施設の参考となるようとりまとめたものである。

今後は、本手引き活用し、地域活性化に寄与できるインフラツーリズムを育て上げていくため、国土交通省をはじめとする関係機関とインフラが設けられている地域とが連携する際の参考となることを願っております。

魅力的なインフラ施設



民間運営見学システムによる受け入れ枠の拡大
(首都圏外郭放水路・埼玉県)



市街地から歩いていけるダムを観光資源
として活用(天ヶ瀬ダム・京都府)



工事現場見学と周辺資源の組み合わせによる魅力の増大(国道 289 号 八十里越)



徹底した安全管理が支えるブリッジワールド
(明石海峡大橋・兵庫県)



水陸両用バス事業者が監査廊を案内
(湯西川ダム・栃木県)



定期的な ” 観光放流 ” による誘客
（宮ヶ瀬ダム・神奈川県）



ダム建設中の多彩な見学ツアーの実施による魅力 UP
（ハッ場ダム・群馬県）



地元民間事業者がキャットウォーク
を案内
（川治ダム・栃木県）



複数のインフラ施設を組み合わせた魅力の拡大
（休山トンネル・広島県）



世界遺産白神山地に隣接する自然豊かなダム湖で水
陸両用車を体験（津軽ダム・青森県）

1. 現状と課題

1.1 インフラツーリズムのこれまでの取り組みと現状

平成 25 年に打ち出された「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」の中で、特徴あるインフラを観光資源として活用していくことが打ち出されたことを踏まえ、インフラツーリズムを紹介するインフラツーリズムポータルサイトを立ち上げ、広く国民にインフラツーリズムが楽しめることを伝えていく取組が始められた・・・・・・・・

1.2 これまでの取り組みからの課題

施設管理者へのアンケート調査結果や、現地での事例調査結果を踏まえ、・・・・・・・・

(課題)

施設の見せ方

⇒施設を魅力的に見せる工夫が不十分…………

広報周知

⇒情報発進の方法や内容が不十分…………

対応要員の確保

⇒施設管理者職員が対応しており受け入れ枠の拡大が難しい…………

受入環境の整備

⇒トイレや駐車場などの確保が十分にできない…………

安全性の確保

⇒見学者・施設利用者・危機管理などの安全性確保が必要…………

持続性の確保

⇒インフラツーリズムを継続的に実施していく仕組みが不十分…………

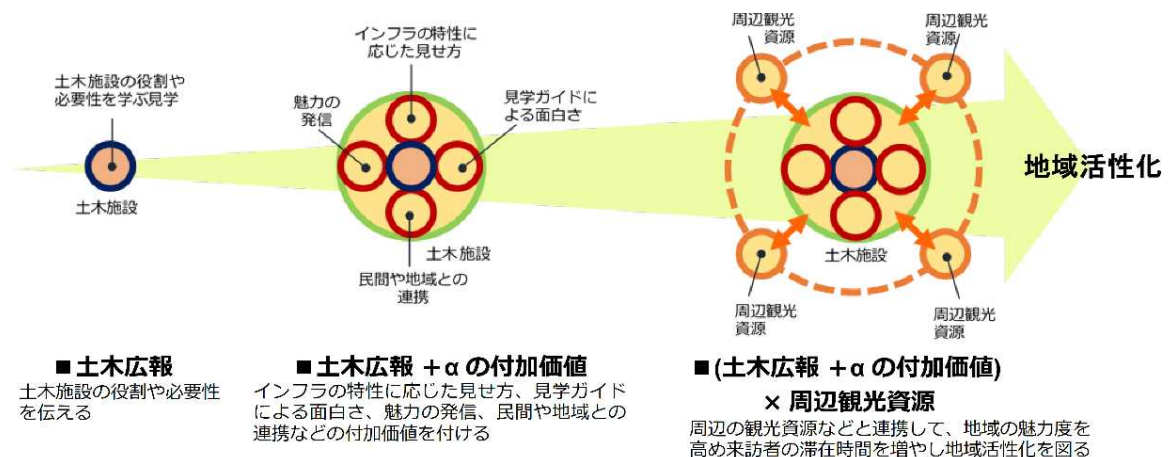
地域との連携

⇒地域との連携方法が分からずに十分に地域活性化に結びついていない…

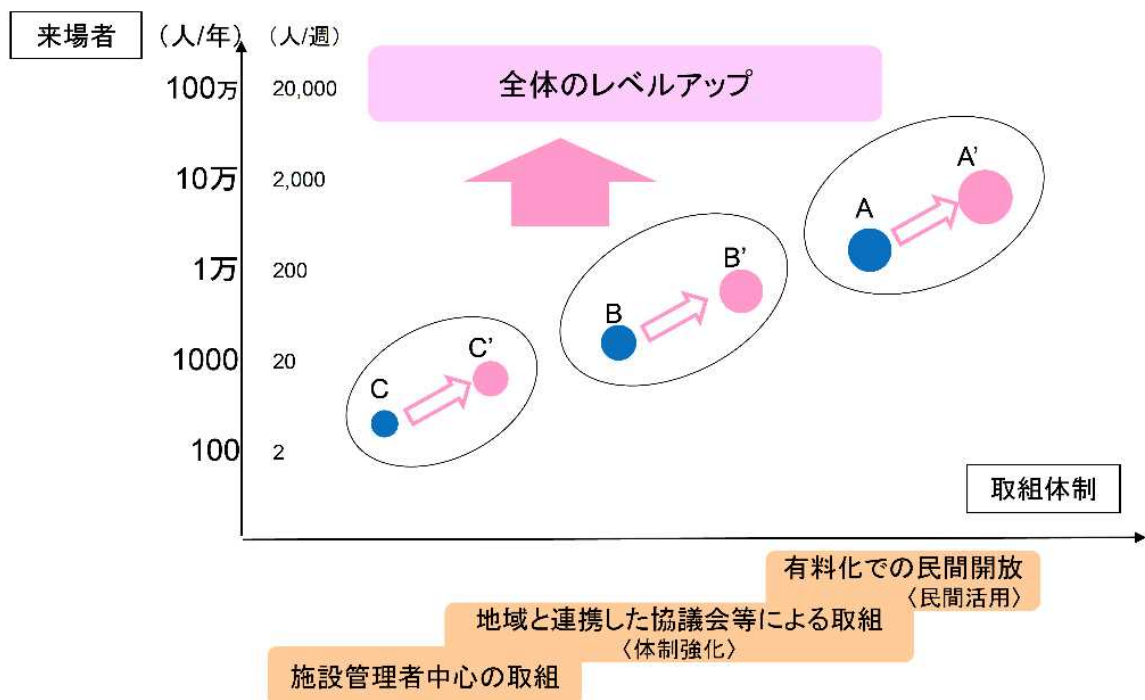
2. インフラツーリズム拡大の方向性

普段触れることのできないインフラの内部や日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを、魅力あるツアーとして拡大させ、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与していくことがインフラツーリズムに求められている・・・・・・・・

土木広報からスタートした施設見学に付加価値を付けることにより、施設の魅力をアップさせ、さらに周辺の観光資源と連携することにより・・・・・・・・



インフラ施設の特徴、地域の目標に応じて各施設がステップアップを行うことで、インフラツーリズム全体の拡大が可能に・・・・・・・・

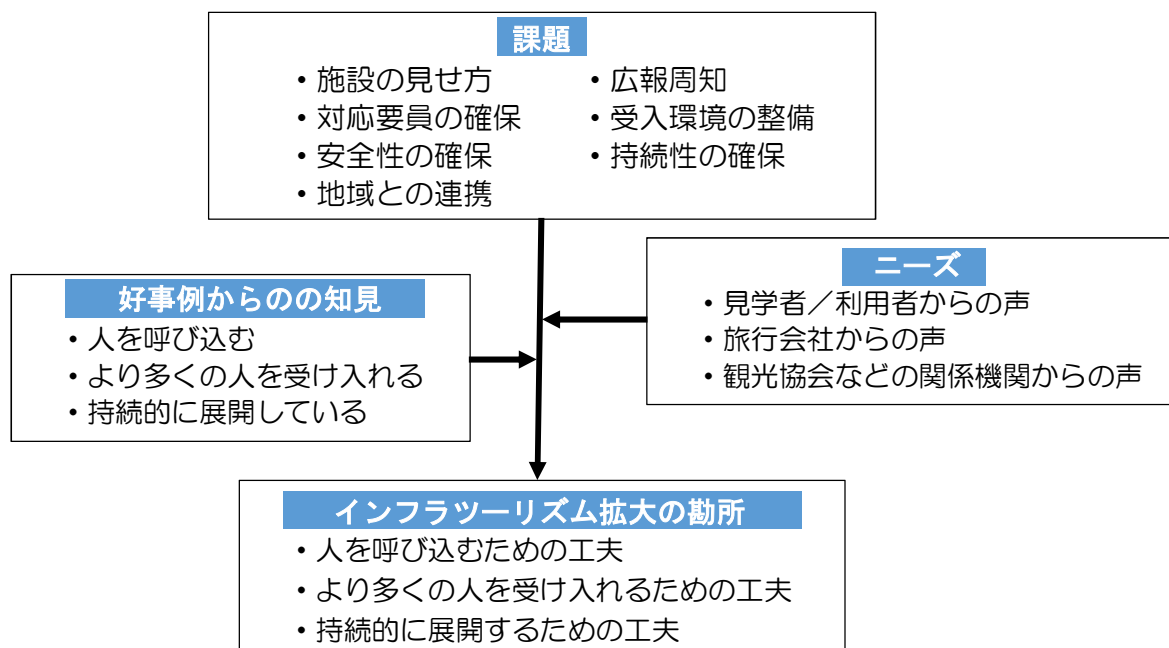


3. インフラツーリズム拡大の勘所

3.1 インフラツーリズムの課題への対応方法

①人を呼び込む工夫、②より多くの人を受け入れる工夫、③持続的に展開するための工夫、に分けてインフラツーリズムの拡大の勘所・・・・・・・・・・・・・・・・

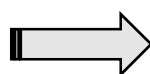
〔対応方法となる勘所の整理〕



3.2 インフラツーリズム拡大の勘所

① 人を呼び込むための工夫

- ①-1 施設の見せ方
- ①-2 魅力発信



次ページに検討中の内容を記載

②より多くの人を受け入れるための工夫

- ②-1 対応要員の確保
- ②-2 受入環境の整備
- ②-3 安全性の確保

③ 持続的に展開するための工夫

- ③-1 持続性の確保
- ③-2 地域との連携

① 人を呼び込むための工夫



①-1 施設の見せ方

【事例にみる勘所】

1 施設の魅力を高める見せ方

- ①土地の物語性を活用（多彩な見学ツアーの開催）
- ②放流などのイベント情報の事前周知
- ③スマートフォン・アプリの活用
- ④非公開場所の活用
- ⑤説明方法の工夫
- ⑥……………
- ⑦……………

2 インフラが生み出した空間の活用

- ①インフラのスケール感を活かす
- ②インフラが生み出した空間を地域主導で活用
- ③……………
- ④……………

1 施設の魅力を高める見せ方

普段見ることのないインフラ施設の非日常性、インフラ施設が有するスケール感、あるいは周辺の歴史や自然などを絡めた説明など、インフラ施設そのものの魅力を高めて、多様な人の満足度を高められるようにします。

①土地の物語性を活用（多彩な見学ツアーの開催）

- ・大人から子ども、マニアから一般観光客まで様々な層に対応できるようにする。
- ・インフラ施設の解説だけではなく、地域の歴史や自然などを取り入れ物語性のあるツアーを企画する。

◇多彩な見学ツアーを開催

（関東・ハッ場ダム）

- 工事事務所と道の駅が主催して、個人向け、団体向けの10コースの多彩なツアーを実施。
- その一つとして浅間山噴火から地域の物語を語るジオパーク見学会の開催。
- 自由に見学できる展望台の整備。



10コースのツアーの一つであるジオパーク見学会

②放流などのイベント情報の事前周知

- ・事前にイベント等の予定を周知して、参加者の行動予定に組み込んでもらうようにする。

◇観光放流等イベントの年間予定表の公表

（関東・宮ヶ瀬ダム）

- わかりやすいカレンダー形式で観光放流やイベントの年間予定を公開。

8月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

平成30年度の観光放流の年間予定表（抜粋）
 青は定期観光放流、赤はイベント観光放流
 8月のお盆期間は、4回もの放流が行われている

③スマートフォン・アプリの活用

- ・多国語で解説できるアプリが活用できるようにする。
- ・その場で体験できない洪水時や点検放流などの疑似体験ができるアプリが活用できるようにする。

◇スマートフォンアプリ活用 (関東・首都圏外郭放水路)

- スマートフォンのアプリを自分のスマートフォンにインストールすると英語、中国語（簡体字、繁体字）の説明に対応。音声で案内することも可能。
- スマートフォンのアプリをインストールすると洪水時の様子を疑似体験することができる。



さまざまな言語で解説



洪水時の疑似体験

④非公開場所の活用

- ・インフラ施設において普段は入ることができない場所を開放することで、非日常的な体験をしたり、圧倒的なスケール感を感じたりすることができる。

◇海上 300mの主塔頂上に登頂 (近畿・明石海峡大橋)

- ブリッジワールドと称して世界一の吊り橋の主塔に登頂するツアーを実施している。
- 橋梁の建設技術の説明を受けた後、普段は開放されていない管理用通路、管理用エレベーターを通過して、海上 300mの主塔からの絶景パノラマを眺めることができる。



管理用エレベーターで登頂

⑤説明方法の工夫

- ・巨大な構造物で現物を指し示すことは難しいが、図や写真であればどこを指しているかが一目でわかるため理解しやすい。

◇紙芝居を使った説明（各地）

- インフラ施設の説明をするときに、わかりやすいように図や写真を用いて説明する。



紙芝居方式で図や写真を用いて説明

2

インフラ施設が生み出した空間の活用

インフラ施設の見学のほかに、インフラ施設が生み出した空間をイベント等で活用することで、インフラ施設の魅力を多くの人に伝える機会を創出することができます。

①インフラのスケール感を活かす

- ・インフラ施設の有するスケール感や非日常性などを活用して非日常的な体験を提供することができる。

◇ダム環境を活かした演奏会の開催 (東北・鳴子ダム)

- 建設 60 周年を記念したイベントを開催。
- その中でダム堤体を反射板として活用し演奏会を行った。



ダム堤体の下で演奏

②インフラが生み出した空間を地域主導で活用

- ・インフラ施設の生み出す空間を活用したいと考える様々な主体が存在し、それらの主体が活用しやすい条件を整えることが大切である。

◇様々な旅行会社がツアーを企画 (中国・四国・本州四国連絡橋)

- さまざまな旅行会社がサイクリングのツアーを企画し、常にサイクリストが行き交うしまなみ海道の橋梁群。



サイクリストのメッカとなっているしまなみ海道

③

(調査、作業の進捗に伴い内容を拡充)



①-2 魅力発信

【事例にみる勘所】

1 多様な主体との連携による情報発信

- ①自治体・観光関連組織との連携
- ②旅行会社との連携
- ③鉄道会社との連携
- ④マスコミへのPR
- ⑤……………

2 施設管理者による情報発信

- ①ホームページ・ブログ等の活用
- ②独自の宣伝媒体の作成
- ③イベント情報の事前周知
- ④……………

1

多様な主体との連携による情報発信

施設管理者だけでは広報に限りがある。そこで、様々な主体と連携することによって、その主体が持っている宣伝媒体を利用することができる。

①自治体・観光関連組織との連携

- ・地元自治体や観光協会などの観光関連組織が作成する観光パンフレットにダムを観光資源として掲載している。

◇周辺自治体と連携してパンフレットを作成 (関東・宮ヶ瀬ダム)

- 神奈川県が作成する広域観光パンフレットで宮ヶ瀬ダムを観光資源と位置づけて掲載。
- パンフレット表紙に宮ヶ瀬ダムの写真が掲載され、周辺観光施設と同列に宮ヶ瀬ダムが紹介されている。



②旅行会社との連携

- ・旅行会社が見学会の企画運営を担うことで、旅行会社自身が見学会のPRを行うこととなる。

◇見学会を企画・催行する旅行会社の募集 (北海道 各種のインフラ施設)

- 北海道開発局では、旅行会社の協力を得て幅広いインフラ施設の見学ツアーを実施している。
- 応募する旅行会社は道内にとどまらず関西の会社からもあり、全国的なPRが行われる。

「公共施設見学ツアー」催行応募要領

北海道開発局では、地域経済や国民の方々の生活にとって必要不可欠な公共施設の役割について、より多くの皆さまに知っていただけるよう、河川やダム、道路、港湾等の公共施設の見学を旅行行程の中に取り入れたツアーを企画・催行していただける旅行会社等を募集します。

「公共施設見学ツアー」の実施をご希望される場合は、以下によりお申し込みください。

国土交通省 北海道開発局ホームページより

③鉄道会社との連携

- ・鉄道会社と連携することで、鉄道会社自身が駅や電車内にポスターを掲示し、チラシを配布しPRが進む。

◇鉄道会社の観光キャンペーンにより情報発信

(関東・川治ダム)

- 鉄道会社の旅行キャンペーンにダム見学の企画を売り込み採用された。
- そのため、駅構内でのポスター掲示など鉄道沿線でのPRが進んだ。

旅行キャンペーン
の駅貼りポスター

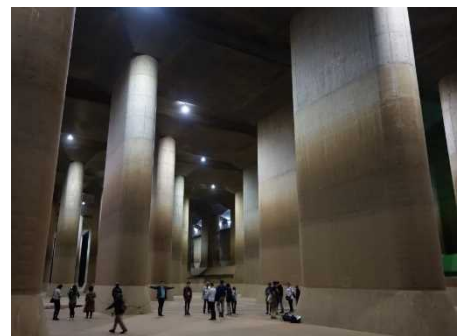


④マスコミへのPR

- ・新聞、ラジオ、雑誌などのマスコミにアピールするネーミングで情報発信する。
- ・そのために興味を惹かれるような名称やロゴなどの工夫を行う。

◇地下放水路を「地下神殿」に見立ててアピール (首都圏外郭放水路)

- インフラ施設をアピールするために「地下神殿」と見立てて広告を行いアピールした。
- 社会実験に関するマスコミ報道は新聞掲載 27 回、テレビ・ラジオ放映 21 回、雑誌・WEB マガジン等掲載は 44 回に及んだ。



地下放水路を「地下神殿」と呼称した

⑤

(調査、作業の進捗に伴い内容を拡充)

2

施設管理者による情報発信

施設管理者が自ら情報発信する方法として、ホームページや SNS で情報提供したり、紙媒体としてチラシやパンフレットを作成する。

① ホームページ・ブログ等の活用

- ・ トップページに見学会のわかりやすいアイコンを置いて、見学会の案内ページにすぐに行けるようにする。
- ・ ブログや SNS など季節や工事の進捗等によって変わる魅力などについて紹介する。

◇ ホームページトップ画面に「やんばツアーズ」の大きなアイコンを掲示 (関東 ハッ場ダム)

- ハッ場ダム工事事務所のホームページのトップ画面の先頭に「やんばツアーズ」の大きなアイコンが掲出されており、すぐに案内ページに行ける。



ホームページの冒頭にある大きなアイコン

② 独自の宣伝媒体の作成

- ・ 施設管理者自身が、広報チラシなどを作成して、近隣の駅や公共施設などに配布する。

◇ 観光案内所での手づくりチラシの配布 (近畿・天ヶ瀬ダム)

- 管理者の職員が手づくりでダム見学を案内するチラシを作成。
- ダムに近い駅構内にある観光案内所で配布。



宇治のもう1つの観光名所『天ヶ瀬ダム』とのキャッチフレーズで売り出している

③

(調査、作業の進捗に伴い内容を拡充)

4. 事例に見る取り組み

4.1 紹介する事例について

■首都圏外郭放水路（埼玉県）

〔選定理由〕

民間運営システムの導入による受け入れ枠の増大を実施した事例



■ハッ場ダム（群馬県）

〔選定理由〕

工事中のダムにおける多彩なダムツアーを開催している事例



■宮ヶ瀬ダム（神奈川県）

〔選定理由〕

定期的な観光放流の実施して多くの見学者を誘客している事例



■天ヶ瀬ダム（京都府）

〔選定理由〕

DMOによってダムを観光資源として商品化している事例



■鬼怒川ダム群（栃木県）

〔選定理由〕

湯西川ダムは水陸両用バスを導入し、民間事業者のみでダム見学会を開催している事例 川治ダムは地元民間事業者のみによるダム堤体案内の事例



■ 明石海峡大橋（兵庫県）

〔選定理由〕

吊り橋の主塔案内(高所における見学会対応)をしている事例



■ 八十里越（新潟県・福島県）

〔選定理由〕

工事中の道路見学と周辺資源との組み合わせの事例



■ 休山トンネル＋ 防災技術センター（広島県）

〔選定理由〕

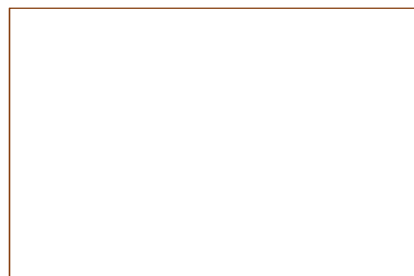
広島国道事務所と中国技術事務所とが連携し見学ツアーの魅力をUPさせている事例（トンネル工事と降雨体験等の組み合わせ）



■ 道路関連工事事例

〔選定理由〕

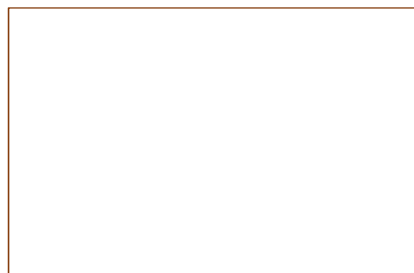
現在、調査検討中



■ 港湾関連／歴史関連

〔選定理由〕

現在、調査検討中

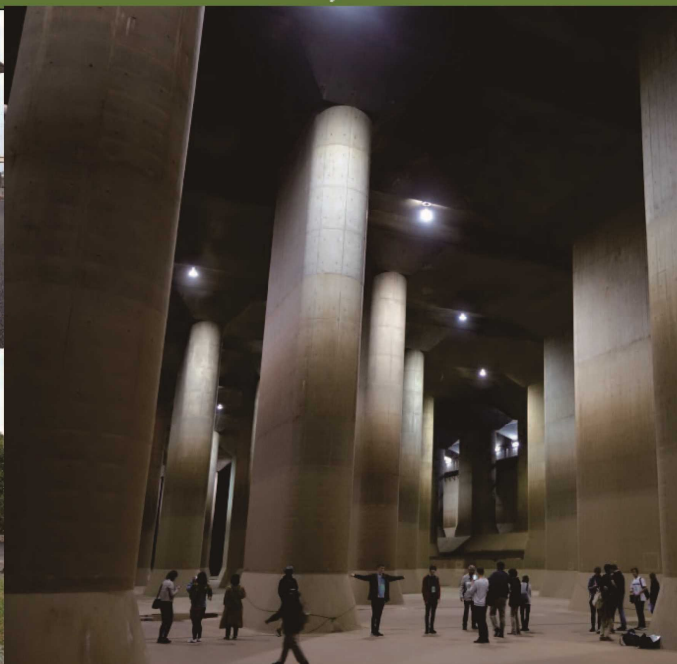


首都圏外郭放水路

民間運営見学システム による受け入れ体制の強化



龍 Q 館展示室（排水機場）での説明
後に地下に下りる入口に向かう



「地下神殿」と称される水槽の中の風景

取り組みの概要

「国の防災施設を官民連携で世界一の観光資源に育てる」ことを目指して、平成 30 年 8 月 1 日より「民間運営見学システム」として社会実験を開始した。民間旅行会社による運営で、土日祝日を含めた毎日 7 回のツアー開催により見学枠を 5 倍に拡大。専門のガイドを育成・配置し、ツアー商品受け入れや春日部市内の施設や農園への誘導等の取り組みも行っている。



地下神殿コンシェルジュによる説明。展示施設「龍 Q 館」にある図を使って首都圏外郭放水路の仕組みを説明

基本情報

【施設管理者・お問い合わせ先】

国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所
〒278-0005 千葉県野田市宮崎 134
TEL 04-7125-7311（代表）

【事業主体】

国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所
春日部市役所環境経済部観光振興課
東武トップツアーズ株式会社

【施設の特徴】首都圏外郭放水路

- ・2006 年全区間完成・全面供用開始
- ・国道 16 号の地下約 50m に建設された延長 6.3km の世界最大級の地下放水路。
- ・「地底探検ミュージアム龍 Q 館」が排水機場に併設。

【アクセス】

電車：東武野田線（東武アーバンパークライン）
南桜井駅北口より 徒歩約 40 分（約 3km）
バス：南桜井駅北口・春日部駅東口から龍 Q 館まで、イオンモール春日部線

POINT 1

民間運営見学システム の導入による体制強化



【民間運営見学システムの導入】

首都圏外郭放水路は、見学希望者が多く施設管理者のみでは充分に対応することが難しかった。そこで、民間事業者が河川区域内で営業活動ができる制度（河川法に基づく河川敷地占用許可準則）を活用し、見学会の運営を民間事業者が対応することとした。

【運営組織づくりと有料化】

平成 30 年 2 月に江戸川河川事務所、春日部市、春日部市商工会議所、庄和商工会、春日部市観光協会で「首都圏外郭放水路利活用協議会」を設立。

この協議会で民間開放に向けた枠組みについて協議し、公募を経て東武トップツアーズ（株）と連携協定を結び、この民間事業者が見学会の企画運営を担うこととなる。民間事業者が運営することから今まで無料であった見学会を有料化（大人 1 人 650 円）している。

POINT 2

体制強化による 受け入れ枠の拡大



民間事業者が運営することから、今まで実施してこなかった土日・祝日にも見学会を開催し、受け入れ枠を大幅に拡大。

その結果、有料化されたにもかかわらず見学者数は前年度の約 3.9 倍に増加。受け入れ枠が広がったことから旅行会社のバスツアーも受け入れ、地元の道の駅にも立ち寄るようになるなどの地域連携効果も発揮。

対前年度見学者数との比較 数字は見学者数（開催回数）

	8 月	9 月	10 月	3 ヶ月合計
H29	2,232 人 (79 回)	1,659 人 (52 回)	1,844 人 (49 回)	5,735 人 (180 回)
H30	9,784 人 (192 回)	5,977 人 (190 回)	6,401 人 (201 回)	22,162 人 (583 回)
対前年比	4.3 倍 (2.4 倍)	3.6 倍 (3.7 倍)	3.5 倍 (4.1 倍)	3.86 倍 (3.2 倍)

POINT 3

「地下神殿コンシェル ジュ」の育成・配置



専門のガイドとして人材を募集し、研修を行った上で、「地下神殿コンシェルジュ」として認定している。現在は全員で 11 名在籍。解説内容は江戸川河川事務所が作成した広報資料をベースに、改良しながらレベルアップを図っている。

【社会実験＜見学会＞の取組概要】

〔開催月日〕

平成 30 年 8 月 1 日～12 月 26 日、毎日開催

1 日 7 回（①10:00②11:00③12:00

④13:00⑤14:00⑥15:00⑦16:00）

〔所用時間〕 50 分 〔募集人員〕 50 名/回

〔参加料金〕 一人 650 円

〔申し込み〕 web または電話

（参加希望日の 1 ヶ月前の同日 11:00 から）

※団体は毎月第 4 水曜日に受入れ。

POINT 4

非公開エリアの開放に よるプレミアム感



【非公開エリアの追加】

今までは、立坑などの施設を公開してこなかった。しかし、民間事業者による運営が始まったことから説明要員などの確保も可能となり、非公開エリアを一部公開している。見学者からは「有料になっても立坑が見られ良かった」との声もある。

【洪水の時だけの特別見学プランの用意】

これまで洪水時には見学会を中止としていたが、通常の見学コースの代わりに水を貯めて防災機能を発揮している姿を見せることで見学会を開催。



深さ 70m の第 1 立坑
の見学



洪水時に水を貯めてい
る状況の見学

POINT 5

インバウンドへ対応 したアプリの開発



都内からも近いいため外国人も多く訪れている。そこで、英語、中国語（簡体字、繁体字）に対応した「インフラガイド多言語アプリ」を開発し、見学前にスマートフォンにインストールすることで見学中に母国語で説明が聴ける。

また、運営者である民間事業者が設けたホームページには英語版の申し込みページもありインバウンド対応がなされている。



スマートフォンにアプリをインストールすれば英語、中国語（簡体字、繁体字）の解説を聞くことができる。

ハッ場ダム

ダム建設中の多彩な見学ツアー



「やんば見放台」からダム工事の全景を望む



上：やんば見放台 下：ツアー用の展望台

取り組みの概要

首都圏で唯一の大規模ダム建設工事現場において、「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」をコンセプトに、「やんばツアー」と称する工事現場見学会をほぼ年中無休で開催。

個人・団体向けの多種多様なツアーを用意し、個人・団体がダム見学に立ち寄ることによって地域内の飲食購買や休憩、観光等の機会を創出している。



やんば見放台へのアプローチ路
舗装され手すりもあり高齢者の方でも行きやすい

基本情報

【施設管理者】

国土交通省 関東地方整備局 ハッ場ダム工事事務所
〒377-1395 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋 11 番地
電話 0279-82-2311 (代表)

【実施主体】

- ◆やんばツアーズ
国土交通省 関東地方整備局 ハッ場ダム工事事務所
- ◆地元主催ツアー（ジオパーク見学会）
長野原町企画政策課
- ◆道の駅スタッフが案内する「ハッ場ダムツアー」
道の駅 ハッ場ふるさと館

【施設の特徴】

- ◆ハッ場ダム（完成時）
堤高 116.0m 堤長 290.8m 重力式コンクリートダム



ツアー用の展望台は仮設であり足下に注意が必要である

POINT 1

多様な見学テーマと プレミアム感の演出



【やんばツアーズの概要】

多彩なテーマの見学ツアーが用意され、参加時間も 40 分～90 分となっている。そのため、参加者も自分達の興味や持ち時間に合わせて見学ツアーを選べるものとなっている。ツアーの中には予約がいるものもあるが、基本的に予約不要で気軽に立ち寄れる。

工事現場を望む展望台は、一般に開放された「やんば見放台」と見学ツアーに参加すると入れる「ツアー用の展望台」との2つに分けられ、ツアー参加によるプレミアム感を演出している。また、見学ツアーに参加する人は、カラーヘルメットの選択・着用できるなど見学ツアーの参加を楽しませる工夫が見られる。

【やんばツアーズのメニュー】

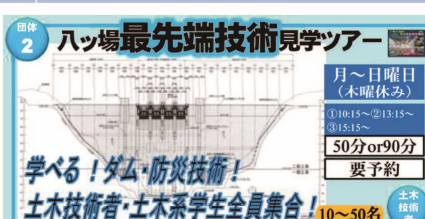
多彩な見学ツアーは下表に示した 10 種類があり、個人用・団体用、無料・有料、予約有無など様々な条件から選べる。

参加しやすい見学ツアーを構成した結果、やんばツアーズを始めた平成 29 年は前年の 10 倍の見学者が訪れるようになっている。



見学者数の推移（個人+団体見学会）

ツアー名	テーマ	定員	時間	予約	料金
ハッ場ダム季節限定見学会	自然と歴史そしてダム見学	20	—	要予約	有料
地元在住ガイドご案内見学会	地元在住ガイドが語るハッ場ダム	40	60 分	要予約	有料
ハッ場ダムぶらっと見学会	お気軽にぶら〜っと。	40	40 分	不要	無料
ハッ場夜の現場見学会	浮かび上がる光の工事現場！	40	50 分	不要	無料
ハッ場ダムファン倶楽部見学会	普通の見学会では物足りない方！	—	—	—	無料
ハッ場ダムジオパーク見学会	長野原町企画	—	—	—	無料
やんばコンシェルジュ御案内ツアー	ダムの巨壁が目前に迫る	50	50 分 90 分	要予約	無料
ハッ場最先端技術見学ツアー	土木技術者・土木系学生集合！	50	50 分 90 分	要予約	無料
ヤンバインバウンドツアー	世界に誇る！日本のダム技術	50	50 分 90 分	要予約	無料
やんば丸ごと体験ツアー	学んで育てる水防災意識社会！	100	50 分 90 分	要予約	無料



多様な層に向けた見学会を開催している。

【見学ツアーの概要】

【やんばツアーズ】

・ハッ場ダム工事事務所が実施する見学ツアーで多様なメニューがあり無料で参加できる。

【地元主催ツアー】

・やんばツアーズの1つに位置づけられているが、地元の長野原町が「浅間山北麓ジオパーク」に指定されていることから長野原町でツアーを運営

【ハッ場ダムツアー】

・道の駅「ハッ場ふるさと館」が主催する見学ツアー
・見学者が用意したバスにスタッフが同乗し案内。
・ツアーは、有料で食事付きは一人 1,500 円で 10 名以上の開催。食事なしはバス 1 台 3,000 円

POINT 2

ダム完成後をにらんだ 地元主催ツアー



ダム完成後をにらんで、地元住民らが主催する 2 種類の有料ツアーを始めている。

季節限定見学会では新緑・ホタル・紅葉等をテーマにダム完成前の今だけの景色を楽しむツアーを実施。地元在住ガイド見学会では、ナイトツアーとして建設現場と長野原町の未来を語るツアーが開催されている。



ダム完成後も観光の拠点となる道の駅・やんばふるさと館

国道 289 号 八十里越

工事現場見学と周辺資源 の組み合わせ



道路建設現場の見学

取組の概要

一度途絶えた会津と越後の道が時を超えて再び結ばれる「国道289号八十里越」の工事見学を通じ、事業の効果・必要性を感じてもらうとともに秘境八十里越の最大の魅力である「あふれる自然」や「河井継之助にまつわる歴史ロマン」を実際に体感してもらう、「秘境八十里越体感バス」を三条市がツアー企画を主導し民間がツアーを実施している。



峠のトンネルや橋梁の工事現場を見ることができる



現場での説明風景 解説パネルを利用し丁寧に説明

基本情報

【事業実施者（権限代行区間）】

国土交通省北陸地方整備局 長岡国道事務所
〒940-8512 新潟県長岡市中沢 4-430-1
TEL 0258-36-4551
新潟県三条地域振興局
福島県南会津建設事務所
※新潟県施工、福島県施工区間は工事終了。

【体験ツアー実施主体】

三条市経済部営業戦略室

【実施主体】

三条市、只見町、只見町観光まちづくり協会、新潟県三条地域振興局、福島県南会津建設事務所、北陸地方整備局長岡国道事務所

